

新型コロナウイルス感染症 Q&A ⑦

(浜松医科大学 堀井俊伸教授に聞きました。)

2021 年 6 月 17 日現在

2 月 17 日から始まったワクチン接種は、現在、65 歳以上の人をおもな対象者として進められています。一方で、緊急事態宣言が発出されていた北海道、東京都、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県、沖縄県では、継続となる沖縄県を除いて、ようやく 6 月 21 日から、まん延防止等重点措置へ移行しようとする段階にあり、医療体制の維持に予断を許さない地域も多くあります。この 1 年余りの間に感染予防の手法はすでに確立されたものとなりましたが、今なお、感染予防への意識を高く維持して実践しなければならない状況が続いています。ヒトからヒトへの感染が可能な変異ウイルスが次々出現するというウイルス側の特性や、パンデミックが長期化するにつれて感染予防への意識を高く維持できなくなる人が増える傾向にあることなどの要因が重なり、収束の兆しはまだ霧の中です。最近では、ワクチンの効果を回避する新しい変異ウイルスの拡大などが懸念されています。ワクチン接種により症状が重なることを抑える効果は期待できるものの、ウイルスの媒体^{ベクター}になりうること（ワクチン接種を完了した者を介したウイルスの伝播^{でんぱ}がありうること）が指摘されているため、接種後であっても感染予防を緩めず実践し続けることが求められます。

<Q12 ワクチン接種にあたって>

ワクチン接種を受けるにあたって注意すること、副反応について教えてください。

A : 国内でも、成人への mRNA^{メッセンジャー} ワクチンの接種が進むにつれ、かなりの被接種者が副反応を経験しています。この mRNA ワクチンの既知の副反応には、接種後 30 分間以内に発症するアナフィラキシー（急性アレルギーの激しい症状）と数時間後～翌日に顕れる接種部位に局限した反応（痛み、発赤^{ほっせき}、腫れなど）のほか、翌日～数日の間に顕れる特有の全身反応^{けんたい}（倦怠感、筋肉痛、頭痛、発熱など）の 3 つがあります。さらに、年月が経過して未知の副反応（後遺症）が顕れる可能性も残されています。未知の副反応のことはさておき、特有の全身反応は、若い世代ほど出現頻度とその強さが高まる傾向があり、日常生活に支障をきたすことや欠勤せざるをえないことも稀ではないよう

です（1回目よりも2回目のほうが強く顕れます）。子どもにおいても、これらの副反応がみられるものと考えられていますが、限定的な接種人数に留まっているため、例えば、つい最近にも、16～24歳の若年男性が予想外の頻度（3,000～6,000人に1人）で心筋炎を発症していたと米国から報告がありましたように、この先、子どもの副反応に関する情報も更新されていくことでしょう。また、接種に対する不安や緊張から接種前後に不調を訴える子どもが出てくるかもしれません。なお、ワクチン接種を受けるにあたっては、まず「説明書」などでその効果と副反応についてよく理解することが大切です。接種を受けるかどうかは、接種を受けようとする者（またはその保護者）の意思に基づいて決定するものであると定められています。接種不適当者や接種要注意者に該当する人もいます。そのため、職場などで強制的な接種の印象を与えることがないように、ご配慮いただければと思います。

＜Q13 変異ウイルスが流行する今夏の対策＞

感染力の強い変異株が流行しているこの夏、感染予防と熱中症予防を行ううえでのポイントや留意点を教えてください。

A：この夏も、これまでの感染予防を緩めずに継続する必要があります。変異ウイルスの拡大とともに、学校やクラブ・サークル活動の場でのクラスターの発生が増えているからです。流行するウイルスの感染力が強くなっているにもかかわらず、パンデミックが長期化しているためか、行すべき感染予防に不十分な部分（ムラ）が生じていることも要因の1つになっているのではないかと思います。密になっているところでつい大きな声を発していることや、マスクを外しておしゃべりを続けている場面はないでしょうか？今夏の熱中症予防は、感染予防を併せてどちらもしっかり行うことがポイントです。例えば、熱中症予防のためにマスクをはずす場合も、できるだけ短時間として、ソーシャルディスタンスを確実に保持するとともに、発声を控えるようにします。これからの季節、通常の熱中症予防を促すとともに、熱中症が生じやすい環境での活動をなくし、熱中症のリスクを低減した活動内容とすることにより、子どもたちが感染予防を徹底しやすくする工夫も有効だと考えます。

＜Q14 宿泊行事で就寝するときの感染予防＞

宿泊行事で子どもたちが就寝するときの感染予防を教えてください。

A：就寝中は、子どもたちがマスクを装着するかどうかにかかわらず、2 m 程度のソーシャルディスタンスが確保されるようご配慮ください。そのうえで、マスクを外したらおしゃべりをしないというルールが徹底できればマスクなしで朝を迎えて問題ありません。起床後、おしゃべりを始める前に再び装着するよう指導します。しかしながら、マスクをはずした後におしゃべりをしてしまう子どもが1人でもいる部屋では、全員マスクを装着して就寝せざるを得ないでしょう。